

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学14							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験	
柔道整復学科・夜間部	2年	4期	藤沢 佑輝			○	
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
膝関節～下腿部の外傷及び損傷を取り扱い、受傷機序～鑑別診断～整復・固定・後療法～予後と一連の流れを理解した上で処置することが、自身でできるように解説を行う。							
目標							
一般目標(GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標	柔道整復師として外傷の対応を正しく行えるようになるため、骨折・脱臼・軟部組織損傷の鑑別診断、処置、後療法、予後における対処が誤りが無いよう、必要な知識を習得すると共に、臨床において必要な技術と、社会復帰に向けて管理する知識と態度を身に付けます。						
到達目標(SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発育期の膝関節障害等について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 2. 腸脛靭帯炎について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 3. 鷓足炎について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 4. 膝蓋大腿関節障害について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 5. 膝周辺の神経の障害について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 6. 下腿骨骨幹部骨折について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 7. 腓骨骨幹部単独骨折について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 8. 下腿骨顆上骨折について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 9. 下腿骨疲労骨折について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 10. 下腿部の軟部組織損傷(P421～P423)について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 11. 下腿コンパートメント症候群について理解し、選択肢の中から正しい答えを選択することができる。 						
履修に必要な予備知識や技能							
損傷を理解するため解剖学、特に骨学・筋・靭帯学になるため1年次に学んだ解剖学の復習が必要。講義プリントでも適宜補足しながら授業を行う。							
教科書・参考書							
柔道整復学理論編第6版							
受講上の注意							
スマートフォン等の電源を切るか、マナーモードしておく事。解らない事があれば授業中、授業後に適宜質問してください。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
定期試験は、選択問題を中心に出題します。							
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	ガイダンス、発育期の膝関節障害			柔道整復学理論編P.404～	柔道整復学理論編、配布プリント		
第2回	腸脛靭帯炎、鷓足炎、膝蓋大腿関節障害			柔道整復学理論編P.406～	"		
第3回	膝周囲の関節包・滑液包の異常、神経障害、注意すべき疾患(青少年期にみられる疾患、中高年期にみられる疾患)			柔道整復学理論編P.408～	"		
第4回	下腿部の疾患(解剖と機能)、下腿骨間部骨折			柔道整復学理論編P.411～	"		
第5回	腓骨骨間部単独骨折、下腿骨果上骨折			柔道整復学理論編P.417～	"		
第6回	下腿骨疲労骨折、アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎			柔道整復学理論編P.420～	"		
第7回	アキレス腱断裂、下腿三頭筋の肉離れ、下腿部のスポーツ障害			柔道整復学理論編P.421～	"		
第8回	コンパートメント症候群、蜂窩織炎、骨肉腫、孤立性骨嚢腫、静脈瘤			柔道整復学理論編P.423～424	"		
第9回	定期試験				"		
第10回	解説・復習				"		
実務経験と本講義との関連について							
15年前から鍼灸接骨院で勤務し、臨床現場で培った知識・経験をもとに講義していく。							
メールアドレス							
fujisawa-t@nihonisen.ac.jp							